

香川光磨

かがわ・みつま

福山誠之館校長(第17代)

経歴

生: 明治33年(1900年)6月30日、広島県豊田郡瀬戸田町大字林[現広島県尾道市瀬戸田町林]

没: 昭和57年(1982年)2月23日、県立瀬戸田病院において胃癌により没、享年82歳、瀬戸田町・吉祥寺に葬る

| | | |
|---|------------|-------------------------------------|
| 大正2年(1913年)3月28日 | 12歳 | 瀬戸田小学校卒業 |
| 大正4年(1915年) | 14歳 | 瀬戸田小学校高等科卒業 |
| 大正14年(1925年)6月 | 24歳 | 東京帝国大学経済学部商業科卒業 |
| 大正15年(1926年)4月15日 | 25歳 | 新潟県立長岡商業学校教諭 |
| 昭和2年(1927年)4月10日 | 26歳 | 依願退職 |
| 昭和6年(1931年)2月15日～ 昭和6年(1931年)5月31日 | 30歳 | 朝鮮総督府図書館 |
| 昭和6年(1931年)6月1日 | 30歳 | 朝鮮公立実業学校教諭、木浦公立商業学校教諭 |
| 昭和19年(1945年)5月22日～ 昭和21年(1946年)5月31日 | 44～ 45歳 | 朝鮮総督府師範学校教授、大邱師範学校教授 |
| 昭和21年(1946年)5月 | 45歳 | 朝鮮より引揚げ |
| 昭和22年(1947年)4月1日 | 46歳 | 広島県豊田郡瀬戸田町立瀬戸田中学校校長 兼瀬戸田町立青年学校校長 |
| 昭和27年(1952年)4月1日～ 昭和31年(1956年)3月31日 | 51～ 55歳 | 広島県土生高等学校(現因島高等学校)校長 |
| 昭和31年(1956年)4月1日～ 昭和36年(1961年)3月31日 | 55～ 60歳 | 広島県福山誠之館高等学校校長 |
| — | — | 私立至誠女子高等学校校長 |

生い立ちと学業、業績

尾道市立瀬戸田中学校校歌を作詩。

「在職時代の思い出」 香川光磨

私が福山誠之館高等学校に、学校長として赴任したのは、昭和31年の春である。今の合同庁舎のある堀を廻らした三吉町の一画で、県立福山中学校以来の校地で、古いがドッシリと落ち着いた校舎、校門脇の藩校誠之館の玄関、それらを取り巻く年月を経てよく手入れされた植込、それに時恰も爛漫たる桜花。私は荘重幽雅な学園の環境に先ず打たれた。

やがて就任式と云うことで、講堂に導かれたが、多数の教職員・生徒が、指導の先生の号令一下、姿勢を正し、水を打ったように肅然として私を迎えて呉れた。

私は感嘆すると共に、自ら襟を正すのであった。

かかる礼節を尚ぶ校風は藩校誠之館以来の伝統である。

私の在勤中、天野貞祐先生、安倍能成先生、森戸辰男先生等、当時一流の教育家である名士を迎えて、講演を依頼したものであるが、卒業生である森戸先生は別として、天野先生や安倍先生は「今頃こんな学校があるのか！」と感嘆され、「校長さん！この学校を大切にしてくださいよ！」と云われたのを憶い出す。

当時此学校には、普通科、家庭科、商業科の全日制、夜間の定時制普通科、昼間の定時制家庭科の水呑、及び鞆の両分校、それに県東部を基盤とした通信教育部があつて、県内で最も複雑且つ大所帯の学校で、私は各部の職員生徒に接するため、日時の足らざるを嘆く状態であつた。

が、私の真に嬉しく思ったことは、先生も生徒も一人残らず、誠之館の先生であり、生徒であることに誇りと責任を感じ、それぞれ努力し、行動してくれたことであつて、「さすがに誠之館なればこそ！」と感銘止まざるものがある。

尚、私の在勤中、全日制普通科の生徒は殆んど大学進学志望者であつたが、毎年東大、京大を初めとして、国公立大学や有名私学に入学するものが多く、その入学率は概ね県下公立高校で一流、広島大学の附属高校と肩を並べる状況で、今日進学方面で良成績を誇る私学の修道や広島学院等は、昭和31年以来実施された広島市における公立高校の総合選抜のお陰で、次第に抬頭したもので、私が福山誠之館高等学校に在職中はまださ程のことはなかつた。

また全日制商業科を中心にした就職志望者も、能力の高さと誠実勤勉さで高い評価を得、運動方面も柔剣道、野球、庭球、卓球等で県東部の雄として活躍していた。

誠実勤勉！と云えば、これがこの学校のバックボーンであつたことも見落としてはならない。

講堂には藩校以来の「誠之」の額が掲げられ、校長室には三谷一二先生の「人間幸福の基は健康にあり。而して健康の源泉は至誠一貫善を楽しむにあり」と云う軸が掲げられ、我々は日常これに接していた。

三谷一二先生は、一橋高商を卒業、三菱鉱業の会長を勤められ、戦後は郷里の福山市長に

迎えられた。

福山誠之館中学卒業の大先輩で、私の在職中同窓会長を勤めておられた。

文字通り至誠一貫の人格者で、同窓会、PTAの役員と共に入学式、卒業式は勿論、始業式、終業式、その他何かあると自発的に来校され、教師や生徒を励まされた。

思えば、誠之館と云う学校は、福山市を中心とする備後地域の数多くの卒業生を中心として、地域の人々によって励まされ、育てられ、守られて来た真に有難い学園であったと熟々思う。

こう云う学校が、数年前より実施された福山市内公立高校の総合選抜制に依って、次第にその俤を薄くしていると聞いて、慨嘆するものは私のみではあるまい。 (出典1)

誠之館所蔵品

| 管理No. | 氏名 | 名称 | 制作／発行 | 日付 |
|-------|----------------------|---------------------------------|--------------|-------|
| 02060 | 香川光磨 著 福山誠之館同窓会 編 | 「在職時代の思い出」、『懐古－誠之館時代の思い出－』、212頁 | 福山誠之館 同窓会 | 昭和58年 |

情報提供: 上杉陽勇氏(昭和35年卒)

出典1:『懐古－誠之館時代の思い出－』、212頁、香川光磨、「在職時代の思い出」、福山誠之館同窓会編刊、昭和58年5月15日

出典2:『誠之館百三十年史(下巻)』、148頁、福山誠之館同窓会編刊、平成元年3月31日

出典3:『ニコピン先生 葛原しげる追悼集』、103頁、「先輩校長の葛原先生」、香川光磨、角川書店編刊、昭和39年3月29日

出典4:「福山誠之館新聞(第68号)」、福山誠之館高校報道課発行、昭和36年4月29日

2004年10月21日更新:経歴●2005年4月6日更新:経歴●2006年3月28日更新:経歴●2007年7月27日更新:経歴●
2007年10月16日更新:経歴●2007年11月14日更新:経歴●2008年2月4日更新:出典●2010年5月28日更新:経歴●
●2010年8月10日更新:経歴・本文●2011年8月19日更新:本文・誠之館所蔵品●2011年8月24日更新:本文●